



水道事業決算

収益的収入および支出	平成27年度	平成26年度
水道事業収益	306,592,498 円	310,099,762 円
水道事業費用	287,929,852 円	288,697,052 円
当年度純利益	12,735,482 円	13,551,378 円
当年度未処分利益剰余金	362,990,819 円	350,255,337 円
翌年度繰越利益剰余金	362,990,819 円	350,255,337 円
資本的収入および支出		
資本的収入	58,892,000 円	80,000,000 円
資本的支出	133,934,784 円	158,951,780 円
資本的収支不足額	75,042,784 円	78,951,780 円

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額75,042,784円は、当年度分損益勘定留保資金69,115,620円および当年度分消費税、地方消費税資本的収支調整額5,927,164円で補てんした。



下水道事業決算

収益的収入および支出	平成27年度	平成26年度
下水道事業収益	774,828,903 円	705,062,959 円
下水道事業費用	620,824,402 円	627,069,181 円
当年度純損益	147,945,474 円	70,630,540 円
当年度未処理欠損金	632,124,114 円	780,069,588 円
当年度末不良債務	0 円	0 円
資本的収入および支出		
資本的収入	209,188,357 円	260,460,341 円
資本的支出	517,881,594 円	546,325,593 円
資本的収支不足額	308,693,237 円	285,865,252 円

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額308,693,237円は、当年度分損益勘定留保資金で補てんした。



議会の



6月定例会

議決された議案

- 議案第53号 平成27年度鶴田町水道事業決算認定について
議案第54号 平成27年度鶴田町下水道事業決算認定について
議案第55号 平成28年度鶴田町一般会計補正予算（第1号）案
議案第56号 平成28年度鶴田町第1財産区特別会計補正予算（第1号）案
議案第57号 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて
専決第1号 平成27年度鶴田町一般会計補正予算（第5号）
議案第58号 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて
専決第2号 鶴田町町税条例等の一部を改正する条例
議案第59号 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて
専決第3号 鶴田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例
議案第60号 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて
専決第4号 鶴田町承認企業立地計画に従って設置される施設に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例
議案第61号 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて
専決第5号 行政不服審査法の全部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例
議案第62号 平成28年度鶴田町一般会計補正予算（第2号）案
報告第1号 平成27年度鶴田町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

概要 6月定例会

平成28年第2回鶴田町議会定例会が、6月2日から9日まで会期8日間で開かれました。今定例会では、議案10件について審議が行われ、原案どおり議決（認定2件、可決3件、承認5件）されました。また、水道、下水道の公営企業会計決算が認定されましたので、平成27年度の水道事業決算、下水道事業決算について、概要をご紹介します。

一般質問

6月定例会一般質問の 要旨をお知らせします

長内 齋 議員

所属会派 誠志会

①稲作農家の 収入安定について

稲作農家は現在、米価の下落により経営難が続いているところであり、担い手も少なく経営安定が望まれるところです。

しかし、国はTPPを進めており米価はさらに下落することも予想されます。

また、国は喫緊の対策として、飼料米の作付拡大や作業経費削減のために大規模農家への集積を進めていますが、思うように進んでいないのが現状です。

そこで、鶴田町全体の米価高値ピーク時の収入額と昨年の米価収入額では金額にするとどれくらいの差になるかお伺いします。

また、このことに対して、鶴田町として稲作農家の経営安定につながるどのような対策を取っているかお伺いします。

答弁 町長

鶴田町全体の米価高値のピーク時の収入と昨年度の米価収入額の差額ですが、米価は昭和59年から昭和61年の3か年がピークで、一俵当たり1万8662円で、一俵面積が1920haでしたので、生産額は38億5800万円となります。一戸当たり

にすると218万円です。昨年の概算金は1俵当たり9200円で、主食用米の作付面積が993haでしたので、生産額は9億4096万円となりました。一戸当たりになりますと114万円です。

1俵当たりの単価では半額以下の9468円の減となっており、作付面積では約48・3%減の927haの減となっているため、町全体の生産額の差額は29億1704万円となります。一戸当たりでは104万円の差となります。

町では稲作農家に対し、国交付金事業である



経営所得安定対策への取り組みを進めてきております。米の生産目標を達成した販売農家に交付される「米の直接支払交付金」をはじめ、転作物物の生産・出荷を行った農家に交付される「水田活用の直接支払交付金」や「産地交付金」などにより、平成27年度では3億2000万円弱が交付されております。

また、町単独事業として、特産果樹を新植した際の助成のほか、水田転作に導入しやすいリンドウやアスパラガスを作付けした際の初期投資に対する助成を行っております。

なお、国の方針では、平成30年

産から米の直接支払交付金を廃止するなど、米政策の見直しを行うこととしておりますので、これらへの対策について県と協議し、連携しながら、取り組んでいきたいと考えております。

蒔苗 愛子 議員

所属会派 政優会

①小学校の 統廃合について

1) 各地域の住民説明会を終えて、住民からはどのような意見が出たのか。参加人数はどのくらいなのか、地区別に示してほしい。

2) 統合小学校建設関係課連絡会議は、すでに設置され具体的な検討に入っているのか。

3) 新小学校の建設に向けた具体的なスケジュールを示してほしい。

②観光振興について

1) 津軽富士見湖周辺の施設の維持管理は、どのようにしているのか。

2) 年間を通した観光は、どのように考えているのか。

3) 富士見湖周辺にキャンプ場、

オートキャンプ場を設置する構想はないのか。

4) 現在の産業観光課で対応している観光部門を産業観光課から独立、課の再編をして観光推進、観光行政に専念させてはどうか。

答弁 町長

統合小学校建設関係課連絡会議につきましては、統合小学校の建設について役場内で検討するため、関係課の課長級、班長級の職員11名で組織し、1月20日に第1回目の会議を開催しております。1回目の会議では、担当事務の確認、今後のスケジュールなどについて協議しております。第2回目は、4月11日に開催し、建設候補地、財源等について検討しております。

建設に向けた具体的なスケジュールにつきましては、詳細な検討を重ね、具体的な建設計画を作成してまいります。将来を担う子どもたちの充実した教育環境を整えるために、一日も早い開校を目指してまいります。

次に、観光振興についてのご質問ですが、津軽富士見湖周辺の施設の維持管理は、町職員2名が丹頂鶴の飼育をしながら周辺の草刈りなど管理に当たっております。そのほかに堤防の草刈りをはじめ、芝生の管理や樹木等の剪定、トイレの清掃などは業者等に委託しております。なお時折、お客様からのご指摘がございますので、その都度、改善に努めております。一年を通した観光についてであ



△昨年10月に富士見湖パークで行われた台湾ドラマのロケの様子

苗議員のお話にもありましたように、ＪＲ東日本では、鶴の舞橋を「行くぜ、東北」シリーズのポスターに採用し、昨年の夏に東京支社管内の主要駅に掲示したほか、今年の５月９日から約２週間にわたって上野駅に大型フラッグにしたポスターを掲示しております。

また、女優の吉永小百合さんが出演する大人の休日倶楽部のテレビコマーシャルにも採用され、6月中旬から放映される予定でありますので、さらに多くのお客様がお越しになるものと思われ

鶴の舞橋や丹頂鶴については、年間を通して四季折々の美しい姿を楽しんでいただけるようにしてまいりたいと考えております。

キャンプ場、オートキャンプ場の設置についてであります。富士見湖パークに設置する構想については、現時点ではございません。バス遠足で来られる団体客などの園内の利用状況、園内敷地や駐車場の面積を考えますと、キャンプ場のスペースを確保するために

は、新たに拡張する必要があるのではと思われまふ。キャンプを希望する旅行者のニーズがどのくらいあるか、また、県内や近隣のキャンプ施設がどのような稼働状況になっているのかなど、調べてみたいと思います。

は、以前にも二戸豊議員から提言を受けておりましたが、津軽富士見湖桜祭りやつるたまつり等のイベントの開催、鶴の舞橋を中心とした富士見湖パークへの観光客への対応、J R東日本の北海道新幹線デイスティネーションキャンペーンや五能線沿線地域の広域観光、弘前市や五所川原市を中心とした津軽地域の広域観光、さらには台湾や中国、韓国などアジア地域からの観光客の増加への対応など、観光行政の果たす役割は重要性を増す一方でです。

また、国においても観光庁が観光立国の実現に向けて、取り組みを強化しております。

そのため、町でも観光行政をより強力に進めていくため、組織のあり方について検討するよう指示をしてございます。平成29年度に向けて組織改革を実施し、より実効性のある組織したいと考えております。

答弁＝教育長

学区再編に関する住民説明会は、町内6地区で5月23日から5月31日まで行いました。今回の説明会は、「鶴田町立小学校学区再編基本方針」の「町内小学校を1校に統合し、全町1学区制にする」

ことについての説明を行ったものです。

まず、梅沢小学区からは「スクールバスはどのようになるのでしょうか」「サンシャインスクールはどうなりますか」という質問があり、鶴田小学区からは「建設場所はどこですか」という質問がありました。

富士見小学区からは、「今後のスケジュールはどうなっていますか」「建設まであと何年かかるのか」「建設するか」という質問があり、胡桃館小学区からは、「通学距離4 kmについて」「1校でなくても2校でも3校でもよいのではないだろうか」という意見や「建設時期が早まることがあるでしょうか」という質問がありました。

菖蒲川小学区からは、「いつ頃建設するのでしょうか」という質問があり、水元中央小学区からは「建設場所はどこになるのでしょうか」「特別支援学級はどうなるのでしょうか」「保育所や幼稚園と小学校との関係はどうなりますか」などの質問がありました。

以上のように、統合小学校の建設場所や建設時期などについて多くの質問が寄せられましたが、基本方針である「町内小学校を１校に統合し、全町一学区制にする」ことについては、ご理解をいただいたものと思っております。

また、参加人数につきましては、梅沢小学区が26人、鶴田小学校区が17人、富士見小学区が9人、胡桃館小学区が20人、菖蒲川小学区が15人、水元中央小学区が11人の計98人でした。

神秀次郎議員

所属会派 政和会

①まち・ひと・しごと

創生総合戦略について

人口減少問題の具体策を問う。

②町直営の施設について

「鶴田町農村環境改善センター」「豊明館」の管理と活用状況を問う。

③町立小学校の規模と配置の問題について

学区再編のその後の方向性と町内各地区の説明会における結果について問う。

答弁 〓町長

人口減少は、国レベルで進んでおり、昨年度の国勢調査では、調査開始以来初めて日本の総人口が減少に転じております。当町の人口も速報値で1万3400人となり、5年前の調査に比べて、870人、6.1%の減少となっております。

昨年度策定しました「鶴田町人

「ロビゾン」では、2060年の人口目標を7344人とし、持続可能な人口構造への転換を図ることとしております。

また、昨年度策定した「鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、社会減対策、自然減対策について、産業の充実、生活基盤の充実、次世代育成、健康長寿を4つの柱として、具体的な施策を実施することとしております。

人口減少問題の具体策につきましては、定住支援交付金、若者向け公営住宅建設に向けた基本計画の作成、全国移住ナビプロジェクト動画製作などの新規事業を今年度予算に計上しております。

定住支援交付金は、町内に住宅を新築したり、建て売りや中古住宅を購入する場合に固定資産税相当分を鶴田町商品券で交付するもので、移住定住のきっかけになることを期待しております。

若者向け公営住宅の建設につきましては、現在ある駅東団地建替計画を変更するもので、子どものいるファミリー向けの公営住宅も建設するための準備段階であり、変更計画が承認され次第、建設計画に着手していきたいと考えております。

全国移住ナビプロジェクト動画の製作につきましては、総務省が開発している全国移住ナビのホームページに当町の魅力をアピールするもので、移住の足がかりとなるものと考えております。

また、国の地方創生加速化交付金を活用した「労働力マッチングによる農業活性化事業」により、

農業における労働力不足を解消し、農業の生産基盤を充実させることで、総合戦略の柱である「産業の充実」を図ってまいります。

また、これまでも実施してきております子育て支援、健康づくり、農業振興などの予算は確保し、新旧の事業を併せて、人口減少対策を講じることとしております。

次に、鶴田町農村環境改善センター「豊明館」の管理と活用状況についてのご質問であります。豊明館は、農村の環境整備を組織的に推進し、生活の合理的改善を促進するとともに、農村地域住民の福祉の向上を図るための施設として、昭和57年に設置され、産業観光課で管理しております。

以前は、専門の職員が配置されておりましたが、現在は使用時間に合わせて職員が役場庁舎から豊明館事務室に向かい出ております。

施設の管理であります。鶴田町農村環境改善センターの設置及び管理に関する条例」ならびに「鶴田町農村環境改善センター管理運営規則」に基づいて行っております。

使用時間については午前9時から午後9時までとし、休館日については日曜日および土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、12月29日から翌年の1月3日までの日と定めてございます。ただし、町長が特に必要と認めたときは、変更することができるとしてあります。

ほかの集会施設との大きな違いは、農林水産省所管の補助事業により整備された施設であることか

ら産業観光課が管理しており、さらには管理運営規則の使用料減免規定により、「町の農業関係団体がその目的のために使用する場合」には全額減免されることとなります。

使用に当たりましては、施設を使用しようとする方には、あらかじめ使用許可申請書を提出していただきます。また、使用したテーブルや椅子などの備品については、元通りの位置に戻していただき、ごみなどが散見される場合は清掃も行っております。

活用状況につきましては、町の農業関係団体による総会や研修会、打合せ会議が行われておりますが、ほかには葬儀、健康診断、一般団体による会議が開催されております。また、昨年度からは学童保育の会場として新たに使用されております。

豊明館は昭和57年度の設置であり、供用から34年となりますので、施設の老朽化が進んでおり、これまでも屋根や設備の修繕などを行っております。

特にホール内の暖房や照明については、利用者から改善するようにとのご指摘があり、今後検討を



△町内の各小学校で行われた学区説明会

いたものと思っております。また、学区再編のその後の方向性につきましては、役場内で検討を重ね、議会や町民の皆さまのご意見を伺いながら進めてまいります。

今後より詳細な検討を重ね、鶴田町の子どもたちにとって、よりよい教育環境を保障してまいりたいと考えております。

北谷 正則 議員

所属会派 誠志会

①みどり町に融雪溝の設置計画があるのか

みどり町の住民も高齢化が進んでいる。現状を考えていただきたい。

②鶴田町の今後の観光方針について

宿泊施設の充実を望む。

答弁 町長

最初に、みどり町に融雪溝の設置計画があるのかについては、現時点では調査計画の策定まで至っていないのが実情であります。融雪溝の整備計画にあたって



△ JR 陸奥鶴田駅舎内に掲示されているポスター

は、みどり町内にある公園を共有の雪置き場に活用したり、除排雪等の回数を増やすなどして対応しておりますが、今後も除排雪等の工夫をするなど克雪対策に努めてまいりたいと考えております。

また、高齢者等の生活弱者に対する除雪支援につきましては、地域の支え合い支援体制の構築を図りながら、町内会へ貸与している除雪機械の活用や除雪ボランティアの確保等の促進を図りながら、今後とも生活環境の向上に努めてまいります。

は、水源の確保や排水ルートと流末等の処理能力の確認、さらに個人や団体、企業で利用している地下水への影響、地盤沈下等のことも考慮しながら検討する必要があると見ます。

みどり町内の道路の総延長は約3kmあることから融雪溝の設置延長は約6km以上となり、送水管や中継ポンプ、地下埋設物の処理費用などを含めると、概算で約8億円を越える事業費が見込まれます。このことから、町の財政運営計画との整合性を図りながら検討をしてまいりたいと考えております。

次に町の観光につきましては、蒔苗議員の質問でも答弁しましたように、JR東日本が鶴の舞橋を題材に、これまで以上に大々的に宣伝をしていくこととなっております。

また、近隣市町村で構成する広域観光の協議会などでも活動を展開しておりますので、関係機関とも連動しながら、今後のプロモーションなどにも力を入れ、鶴の舞橋へのさらなる誘客はもちろんであります。道の駅つるたや観光施設等への誘導も図ってまいりたいと考えております。

ご質問の宿泊施設の充実についてであります。鶴田町の宿泊施設

設は、つがる富士見荘、鶴田温泉旅館、山田温泉、民宿梅沢温泉の4施設で、全て民間が経営をしております。町では、観光ウェブマガジン「メデタイツルタ」に掲載し情報発信に努めております。それぞれに特徴のある温泉があり、また、温泉好きなお客様にはぜひ宿泊していただきたいと思っております。

施設の充実については、お客様のニーズも考え、それぞれの経営事情に合わせて対応されているものと思っております。日本人の献身的な精神である「おもてなし」の心をもって、目配り、気配り、心配りをし、お客様に満足感を抱いていただき、リピーターを増やしていただければと考えております。

小関 優 議員

所属会派 政優会

①町内でお金を循環させることについて

鶴田町の活性化や地元業者育成のため、公共事業の発注や物品等の購入について、鶴田町の業者が今以上に優先的に受注できるようにしてはどうかでしょうか。また、下請業者（協力業者）についても鶴田町の業者が受注できるように

努力することが必要だと考えますが、いかがでしょうか。

②熊本地震や東日本大震災の教訓を基にした災害時に相互応援できる体制作りの強化について

当町は姉妹都市鹿児島県さつま町と災害時相互応援協定を結んでおりますが、災害が発生した際、遠距離のため、人的支援や必要品の早期供給など、緊急対応することが難しいこともあります。そのため、県内の太平洋側や秋田県など東北地方の市町村とも災害時相互応援協定を結ぶ必要があると考えますが、いかがでしょうか。

③約230万円の予算を使用し、歴史文化伝承館（旧水元小学校）に展示室を作ることについて

前回定例会（平成28年第1回）の議案審議において、「歴史文化伝承館については、小手先の改修工事ではなく、町民や有識者による活用方法の抜本的な見直しが必要である」と提言させていただきました。その回答として、教育次長は、「外部の方々の意見等も事業を進めながらではありませんが、しっかりと耳を傾けてまちづくり」に反映できるように努めていきたいと思っております」と話していました。

その後の経過についてお知らせください。

答弁 町長

町が行う売買、貸借、請負その他の契約の締結につきましては、地方自治法ならびに同法施行令で規定されております。その中で、指名競争入札に参加する者については、「工事または製造の請負物件の買入れその他該普通地方公共団体の長が定める契約について、あらかじめ、契約の種類及び金額に並び、工事、製造または販売等の実績、従業員の数、資本の額その他の経営の規模及び状況を要件とする資格を定める」とこととされております。

当町では、「鶴田町建設工事の指名競争入札に参加する者の資格等に関する規則」を制定し、参加資格等について定めております。これらに基づき、公共事業の発注や物品等の購入につきましては、契約の種類および金額に応じて資格を有する者の中から指名業者を選定し、入札を行っておりますが、従前から資格を有する者が町内にある場合については、町内の業者を指名しているところであります。また、資格を有する者が町内にない場合または町内にあっても業者の数が不足する場合には、町外の業者を指名しているところであります。いずれにいたしましても、契約に当たっては、法令および町の規則に基づき行うこととなりますので、決められたルールの中で、町

内業者の受注機会の確保に努めてまいります。

また、受注した業者の下請けにつきましても、あくまでも元請け業者が決定するものであり、発注者である町が指示できるという性質のものではありませんが、町内業者の受注機会の確保の観点から、元請け業者への協力要請に努めてまいります。

次に、災害時の相互応援協定についてであります。青森県内では全市町村で「大規模災害時の青森県市町村相互応援に関する協定」を締結しており、大規模災害時には被災地区に対して、応援地区が物資などの提供を行うことに



△鹿児島県さつま町との災害時相互応援協定締結式

協定につきましても、付き合いや交流がある市町村同士が交流を深める中で、協定を締結するのが一般的であり、当町では鹿児島県さつま町と「災害時相互応援協定」を締結しております。さつま町とは遠距離であるがゆえに、同時に被災することがないメリットを活かすために協定を締結したものです。

「外部の方々の意見等も事業を進めながらではあります。しっかりと耳を傾けてまちづくりに反映できるように努めていきたい」と答弁した後の経過に

なっております。

また、消防の応援体制につきましても、県内の全市町村と全消防事務組合で「青森県消防相互応援協定」を締結し、相互の消防力を活用して災害による被害を最小限に防止することとしております。

さらに、県内の消防力で対応が困難な場合には、消防庁長官の指示により、全国から緊急消防援助隊が派遣されることとなっており、地域を越えた消火・救助活動を行うこととなっております。

他県の市町村との



△昨年10月に鶴田町歴史文化伝承館で開催された「ふるさとアート体験フェア」

ついでに報告いたします。

社会教育委員や文化協会の方々いろいろな意見を伺いましたところ、「鶴田町書道会では来年60周年を迎えるため、鶴田町歴史文化伝承館を使いたいと思います。パネルなしでも展示できるようにするため、とても良いことだと思えます。展示スペースの広さもちょうど良く、すぐに飾り付けができます。展示会ができる状況になることは非常にありがたいことであり、これから常設展示できる工夫をしていければ良いと思います」という意見や、「子どもたちの作品を固定した展示スペースで披露できることは、非常にありがたいことだと思っております」という意見がありました。

という意見や「手づくりの作品を展示したり発表する『手づくり作品発表会』を行ったらどうでしょうか」という意見もありました。

鶴田町歴史文化伝承館の活用につきましても、これまで、平成24年度に「鶴田アートフェスティバル」、平成25年度に「受けたい授業プロジェクト2013」、平成26年度に「アートミュージアムinふるさと」、平成27年度に「ふるさとアート体験フェア」を開催して津軽三味線、獅子舞、登山ばやしの合同演奏や、津軽富士見湖伝説を題材にした版画講習会、写真講習会、絵本づくり講習会、絵画講習会、似顔絵講習会などふるさとの良さを再発見し、まちづくりに反映するためのさまざまな企画を展開してまいりました。

今後ともさまざまな方々のご意見を聞きながら、町民目線を大切にしたい活用にも努めてまいりたいと考えております。

【有料広告】

地面の雪を溶かす【ロードヒーター】



地面へ温水パイプや電気ヒーター(ヒートポンプ・ボイラー)を埋設し雪を溶かします。

ヒロデンのロードヒーターが高品質な理由

- ・配管やヒーターを地中接続せず、一本物を使用
- ・線径5.0mmの太いワイヤーメッシュとコンクリートベアサーを使用し、コンクリートは二度に分けず一度に打設することで長寿命、溶けムラ防止
- ・配管・ヒーターの設計・施工を自社で行う為低価格

屋根の雪を溶かす【ルーフヒーター】



屋根トタンの下や上へヒーターを設置し、雪や氷を溶かします。

弊社では北海道の技術に応用し、青森県の湿って重い雪を溶かす工法を確立しました。その為、多種多様なヒーターと工法を取り扱っており、屋根の形状に合わせた最適な融雪プランを提案し、無駄を省く事で工事費やランニングコストを抑えております。高所作業車を使用するため足場費が不要です。

0120-14-0343 5年保証・お見積り無料 弘前市大開1-6-23 ヒロデン株式会社

8月は「電気使用安全月間」です

夏は肌の露出が多くなり汗もかきやすくなることから、電気が流れやすくなります。また、暑さにより注意力が散漫になりがちのため、感電事故が多くなる傾向があります。経済産業省では、毎年8月を「電気使用安全月間」と定め、電気使用安全運動が全国一斉に行われています。電気安全に心がけましょう。

